

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。
Copyrighted materials of the authors.

共同利用・共同研究課題「思考様式および実践としての現代科学とローカルな諸社会との節合の在り方」2012年度第1回研究会（通算第1回目）

日時：2012年9月30日（日）13:00-19:00

場所：AA研マルチメディアセミナー室（306）

春日直樹（AA研共同研究員，一橋大学）

「人類学における科学研究の概説」「本共同研究の課題と展望」

「人類学における科学研究の概説」「本共同研究の課題と展望」

春日 直樹（一橋大学）

大型台風が東京を直撃する異例の状況下で、初回の研究会の開催自体が危ぶまれたために、プログラムの変更を余儀なくされた。組織者である春日は限られた参加者に向けて、人類学の科学研究について概説し、本共同研究の課題と展望を簡潔に整理した。

前者については、科学技術研究の方法論が他の研究領域に影響を及ぼすことによって、必然性を欠いた分析がみられるようになっていること、また科学技術研究が実践(practice)の次元を重視するあまり、当事者たちの思考様式や経験を軽視する傾向にあることが指摘された。

後者については、本共同研究を各自の専門的な研究に資するように進めるべきこと、その上で各自はなるだけ流通性と汎用性の高いテーマを提起するように努めるべきこと、が確認できた。

こののち、台風の直撃が迫っていたために、参加者が手短にそれぞれの問題意識を述べたのち、全員による質問とコメントの形式で議論を進めて、初歩的な総括をおこなった。